

議 事 録

会 議 名	平成26年度第1回寒川町まちづくり推進会議		
開 催 日 時	平成26年6月23日（月）午後3時00分～5時10分		
開 催 場 所	寒川町役場 東分庁舎2階 第1会議室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>○出席委員 小笠原委員、斉藤(雅)委員、新保委員、藤岡委員、井上委員、木立委員、脇委員、右城委員、斉藤(正)委員、山口委員、谷村委員、森井委員、平本委員、磯川委員、菊地委員（会長）</p> <p>○欠席委員 押味委員、清田委員、門脇委員</p> <p>○事務局 土屋町民部長、田中協働文化推進課長、伊藤主査、内藤主事補</p> <p>○傍聴者数 1名</p>		
議 題	<p>1 第3期寒川町まちづくり推進会議報告書（案）について</p> <p>（1）各研究部会等報告</p> <p>①熟年パワー社会還元研究部会（資料2）</p> <p>②女性の活躍の場研究部会（資料3）</p> <p>③町民参加研究部会（資料4-1、4-2）</p> <p>④住民投票条例勉強会（資料5）</p> <p>（2）報告書全般について（資料1-1、1-2、資料6、7）</p>		
決 定 事 項	<p>・内容について、修正の意見等があったものについては、事務局と会長で確認し最終的な内容を決める。</p>		
公開又は非公開の別	公 開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>【その他】 （事務局）会議が始まる前に、会長の方から町長へ今日の会議が最後ということで報告をしていただいた。報告書はまだ案なので、ここでつめて後で最終的なものを提出するということになるので了承して頂ければと思う。</p>		

【当日配布資料について】

(事務局より補足)

- ・「次第」…資料番号を入れたものを差し替えた。
- ・「資料1-1」…報告書の本文になる部分。
- ・「資料1-2」…資料1-1を作るにあたり、事前に寄せられた意見を菊地会長の方にご送付し検討頂いたもの。コメント[MK1]という形で、右側にコメント欄があると思うが、MKは菊地会長の「マサオキクチ」の略です。
- ・「資料2」…事前にお配りした資料2の、熟年パワー社会還元研究部会の検討経過と名簿の追加なので、資料2の最後に加えて下さい。
- ・「資料7」…「第3期 まちづくり推進会議の平成25～26年度調査・協議事項」ということで、内容を一覧にしたものをお付けしている。当日配付資料としては、以上です。

(会長) 本日お配り頂いた次第には、関連する資料番号が入っているので、よろしくお願ひします。(1)に入る前に本日の推進会議の議事録承認委員を名簿順に、谷村委員と平本委員にお願ひしたいと思うが、よろしいか。

(谷村委員) (平本委員) はい。

(会長) では、(1)各研究部会等報告ですが、既に各部会に各研究部会の報告のエッセンス並びに報告書をまとめて頂いている。その概要、もしくはそこに書き込めなかった部分を含めて、それぞれの部会5分程で報告を頂ければと思う。①熟年パワー社会還元研究部会の資料だが、事前に郵送された資料2、そして今日お配り頂いた資料2がこれまでの活動の経緯と各委員の名簿です。ご報告をお願いします。

(1) 各研究部会等報告

〈熟年パワー社会還元研究部会〉

—山口委員より説明— 詳細は資料2を参照

(会長) 今の報告について質問や確認等あるか。

(他の委員) なし。

〈女性の活躍の場研究部会〉

—小笠原委員より説明— 詳細は資料3を参照

(小笠原委員) 当初、この「女性の活躍の場研究部会」を立ち上げた時に、私個人としてはもっと違う形での結果を目指していたが、10人の委員それぞれの意見があり、その中で合意形成はなかなか難しいものが

あった。寒川町の議会議員の中に女性議員は18名中2名しかいない。神奈川県の地方議会に占める女性の割合はかなり高く、20～30%で、葉山町や大磯町は50%近くになっている。それを見ると寒川町の場合はたったの2人ということで、自治基本条例の中でも男女共同参画社会や、町民との協働のまちづくりを謳っているが、そういうことを実現するためには、女性の政策への参画意識の向上は今、社会の趨勢であると思う。町役場においては、女性の管理職の登用が進んでいる、また、まちづくり推進会議における女性委員の登用は、町から頂いた資料を見ると、25ある審議会のうち、女性委員の登用率は、資料変わっているかもしれないが、17.7%という低い数字。また、女性の公募委員は本当に少なく、7名でこの内の3名はまちづくり推進会議委員。あとは男女共同参画プラン推進会議など。こういった現実を踏まえて、やはりただ数字や目標だけを掲げても、土壌がなければなかなか登用は進まないと思ひ、課題を解決するためには何が必要なのかということを研究して、その結果審議会等の規則や内規の見直し、あとは女性が自ら手を挙げて審議会に積極的に参加出来るような意識啓発と環境作りは必要であるということで取り組んできた。引き続き町の方でも体制作りを実現していただくことを望む。

○詳細は、資料3を参照。

(会長) 今の報告について、質問や確認等あるか。

(他の委員) なし。

〈町民参加研究部会〉

－齊藤(雅)委員より説明－ 詳細は、資料4-1、4-2を参照。

(会長) 今の報告について、質問や確認等あるか。

(他の委員) なし。

〈修正案の意見等〉

(齊藤(雅)委員) 町民参加研究部会の資料4-1の35～36ページについては、資料1へ添付したい。

〈住民投票条例勉強会〉

－菊地会長より説明－ 詳細は、資料5を参照。

(会長) 木立委員、何か追加等はあるか。

(木立委員) 私は1期目の途中からまちづくり推進会議に関わらせて頂いている中で、この住民投票条例について1期目はほとんど触れることが出来ずに、パブリックコメントや会議の公開等を重視したということ

もあり、第2期でようやく話が出た。その時は、この場の議論で深く話し合いを進めるべきかというところで終わってしまった部分があり、具体的な話まではいかなかった。こういった中で今回第3期目ということで、色々勉強会という形で分かれ、より深く話すような場が出来た。これまでだと住民投票条例は作れば良いではないかという感覚であったが、色々事例を見たりして知っていくと寒川町の場合、新幹線新駅のテーマはあるかもしれないが、他の基地や原発の問題等、特段抱えている課題がある地域ではない中で、これを定めて制度ありきで進むと内容が後で上手く使い切れないという形になるという恐れもある。ある程度、大枠の部分は固めることは出来るかもしれないが、細かい部分については事例がある程度明確になってきてから使っていく。事例がわからない中で、町民という部分が地元の企業まで含めた部分なのかというのも、住民投票条例を制定してやっていく場合には内容によってそれが良いのか悪いのか、ケースによって変わってくるものがある。決めきれない部分があると思う。ただ、使いたい事例が出て来た時により動きやすくという形では進めていかないといけないのかとは感じている。そういった面では、この3期目というのは深く話をし始めることが出来たので、今後はその部分を色々調査し、他の事例も見ながら、課題を抱えていない地域で制定する動きがあるような所を見守りながら寒川町としてどこまで話し合っていけるのか、動き出せればと思う。

(会長) 本日欠席だが、清田委員は自治基本条例策定の委員でもあったので、そのあたりの経緯等を聞きながら検討を進めた。全体としていかがか。住民投票条例以外でも、それぞれの部会の報告について追加したいこと、確認をしておきたいことはあるか。

(斉藤(雅)委員) 私達の報告書の中では、部会の開催中にパブリックコメントを実施していた事案があったので、実際に見て検討をして、その結果も書いてある。保険年金課が、保険料の徴収方法を変えるパブリックコメントを7月に実施する。今は、企業健保だとか政府管掌保険に入っていて国民健康保険は直接関係ない人も、いずれリタイアすれば国民健康保険に加入するわけで、そういう意味では全町民に関係する問題。今、4項目あって、その内の1つを削るとなれば、この削った収入分を他の3つで按分や負担するようになる。その辺をわかりやすくしていただかないといけないと思う。全町民に関係する大事なことなので、町長に報告したのはわかったが、報告書にこんなことをやったらどうかという提案もあるので、保険年金課の方には別途渡して欲しい。わかりやすく、1枚位で要約してもらいたい。4項目あって、1項目なくなるが、

それはどこかで対応する、その時に公平な付加措置になっているということが言えないと困る。そこのところは、ぜひお願いしたい。

(会長) それは町に対する要望か。

(斉藤雅委員) 事務局に。

(会長) これは部会の資料には。

(斉藤雅委員) のっていない。

(会長) 他に何かあるか。

(他の委員) なし。

(会長) よろしければ、(1) 各部会の報告を終わり、次第の(2) 報告書全般ということで、本日配布資料1-1と1-2をご覧頂きたい。既に皆さんには、たたき台を事前に送付して意見を頂いている。それを盛り込んだのが、資料1-1。資料1-2は頂いた意見についてどういった部分を修正したのか、もしくはしなかったのかということが記されている。

資料1-1(3ページ目)の「3. 各研究部会等の活動と内容について」は、各部会から頂いたものをそのまま載せている。ただ、4ページの(3) 町民参加研究部会のところで、若干修正がある。これは事務局から説明を。事実確認だけして頂きたい。

～修正の説明は省略～

<確認点①>ア・イ・ウの項目があるが、ウで「公募委員の割合がほかの市町村に比べてものすごく少ないのは問題」という表現がある。事務局の方で、ほかの市町村に比べてものすごく少ないというのが確認出来ていない。町民参加研究部会でその部分を確認しているのであれば良いが、表現としてどうなのか気になっている。

(会長) これは事務局からの確認事項。部会の方はいかがか。

(斉藤(雅)委員) 「ウ」については、実際にそういう意見があったという事実が入っている。それ以外のところは良いのではないか。波線のところは実際にそういう意見があったということでよろしいのではないか。

(会長) 実際にあったことが事務局として確認出来ていないということか。

(事務局) 私どもの方では、公募委員の割合が他の市町村に比べて少ないというバックデータがないので、そこの表現の中で受け止めていいのかというところ。

(会長) ア・イ・ウというのは、町民参加研究部会の報告の中の引用の部分にあたると思うのだが、引用の元自体がどうなのかというところか

。資料4-1か4-2のどこかに書かれているのか。

(齊藤雅委員) 今日には付いていないが、平成24年度のスケジュール表に書いてあると思う。

(事務局) 今の齊藤雅委員の発言の内容を補足する。平成24年度のまちづくり推進会議の報告書の中に、平成24年度に取り組んだ内容と、平成25年度に向けての案があるが、そこで行革の委員から公募委員の割合が他の市町村に比べて少ないのは問題だという表現が、「抱えている検討課題」という項目の中であげられていることが確認できた。それを受けての、この報告ということであれば流れとして問題ない。

(齊藤(雅)委員) 実際にそういう意見があったのだから。

(会長) 問題はないということで。下線部のところについては、部会のみなさんいかがか。

(町民参加研究部会の委員) 異議なし。

(会長) 資料1-1の「3・各研究部会の活動と内容について」はこれで確定させていただく。それ以外の部分について、資料1-1、1-2を見比べながらご覧いただくとわかりやすいかと思う。

—会長より修正内容の説明— 詳細は資料1-1、1-2を参照。

(会長) 資料7があるが、これは資料1-1に添付をされるこれまでやってきた活動を、事務局の方で作って頂いたもの。これを見ると本当に色々なことをやったなど、感慨深い。これを併せて見て頂くと、3期まちづくり推進会議が、どのようなプロセスで報告書に至ったのか工程表としてはわかりやすく示されている。

(事務局) 前回の幹事会の中では、平成24年度の内容を資料としてつけたらどうかという意見があったが、平成24年度の動きというのはすでに平成24年度の報告書として提出されているので、今日資料としてつけていない。ただ、すでに提出されているという中で第3期の報告書として今日お示しした資料7の内容でいくのか、一度出しているも、もう一度平成24年度の内容を出すのか確認頂きたい。また、資料6についてはすでに幹事会等で確認頂いているアンケート集計結果なので、今日は特に意見は頂かない。ただ、1点だけ修正がある。13ページの一番下の※がついた4行のところで、「⑦町が～」を「⑥町が～」に修正する。

(会長) 資料7については、平成25～26年度の1年度。平成24年度についてはすでに作ってある。

(事務局) 平成24年度の報告書に添付をしている。
(会長) 相当複雑になるので、出来れば平成24～26年度で付けて頂いた方が。
(事務局) なかなか1枚の中に収まりきらない。
(斉藤(雅)委員) 平成24年度に出したものをもう1枚付ければいい。我々としては平成24～26年度でやってもらいたい。平成25～26年度しかやっていないように思われてしまう。
(会長) 技術的に1枚にまとめられないということであれば、2枚で。
(事務局) そこは確認して頂いて、2枚でいこうということであれば。
(会長) せっかくなので。
(斉藤(雅)委員) そうすれば、すごくやったというのがわかる。
(会長) 一生懸命やり過ぎた。そこは改めて、事務局に技術的に無理のない範囲で構わないので最終的な形で作って頂くということで。その他資料1-1、1-2で何かあるか。欠席の委員からの意見頂いていて、可能な限り盛り込ませて頂いている。

<修正案の意見等>

(斉藤(雅)委員) 資料1-1の1ページの最後が「意」で止まっているので、二文字繰り上げてもらったほうが良いような気がする。
(事務局) そこは、資料1-2と整合をとったもの。最終的には直す。
(会長) 他にいかがか。幹事会ではすでにこの部分については確認頂いているので、幹事会出席されていない委員から何かあれば。
(谷村委員) 4つの研究部会のエッセンス含めてまとまっているので、良いかと思う。
(会長) 斉藤(正)委員。
(斉藤(正)委員) 良いです。
(会長) 右城委員。
(右城委員) 参加したのが昨年からというものもあるが、大変申し訳ないが、経過も含めてよくわからない。同じ様な資料が何回も何回も来るから、今説明されてもどの資料かさっぱりわからない。もう一つは、この会議にどのタイミングで参加するかもわからなくて、幹事会へ行ったら幹事ではない人がいたり、会議の流れというか、全体が掴めていないので力が入らない。個別の話でも、熟年パワー社会還元研究部会に入っていたが、リーダーの方がたたき台を作ってきてくれるのはわかるが、既に方向性を取り決めている様な感じ。最初から入っているとわかるが、途中から入ってくると、何でそんな風になってしまうの、とわからなく

て、そのタイミングからついていけない。色んなフォーマットが出て来て、要所要所で話をしようかなと思うが、出してる本人が休んでしまっていたり、どうも力が入らない。正直申し上げて、これ程気合いが入らない会議は初めて。今説明受けた中で、先程「労力、センス」等ありましたが、ちょっと違うなという気はする。要するに、町の方々の能力やセンスなどの意識改革しかないのではないかという気がする。だから、「労力、センス」等書かなくてもいいのではないか。事務局から、資料の何番と言われて一生懸命探しているが、どれがどれだかちっともわからない。

(会長) 幹事会の資料含めて、全員に共有しておいてということで、資料がどんどん届いて、途中参加だとわかりにくかったかと思う。どこでアクセル踏み込んで、どこで手を抜いて良いのかというのが逆にわかりにくかったと言え、それは進め方の問題でもあるので、反省し、しかと受け止めたいと思う。後で改めて感想は聞くが、資料1-1について他にいかがか。

(脇委員) みなさんのやられたもので良い。

(会長) 幹事会に出ていると流れがわかるが、推進会議だけだとわかりにくいというのはおっしゃる通りで、我々委員の中でも意識の違いはあると思う。

(脇委員) 私の能力の無さが最大だが、幹事会というのが頭のなかでくすぶって残っている。幹事が決めたものをここへ提案されて上がってきたら、そこで会議をすればいいんだろうけど、何か幹事会へ出てないと乗り遅れてしまっているよう。どうもそれが上手くいっていない。幹事会出席しないと、推薦された幹事のみなさんで決めれば良い。それを何で傍聴の様に行っていないといけないのか。傍聴手紙が来る。それで行っていないと話に乗れないのは、おかしい。それで決めたもので進めればいいが、また一生懸命やっている。いくら時間あっても足りない。幹事会で決めたのであれば、それで進めれば良い。何の為に幹事会は作っているのか。我々の社会にそういうものはない。幹事にお任せしたら、そこで出来上がったものが、それで動いていく。それを混ぜ返すようなものはない。

(会長) 本来であれば、推進会議を幹事会の回数並みに開催できれば良かったが、町の推進会議の予算も決まっている中で、それを実質的に機能させるには、幹事会をやらざるを得なかった。これは、この期だけに限らず全期で、そういう形。幹事会なのに幹事会以外にもアナウンスが来て、資料が送られてくるというのが、逆に幹事会に限らずみなさんに

多くお知らせしようというやり方が、他の委員からしたらもしかしたらわかりにくかったかもしれない。推進会議の委員だけになると、年に3回集まったところでしか推進会議が動いている状況を把握出来ないのは問題だろうということで、簡単な議事録を提供している。私の所にも多くの資料がある。

(右城委員) 僕らは途中から入ったので、幹事会がどういう経緯で出来たのかわからない。初めて幹事会という名目で会合があり、聞いたら幹事以外でも出て来て良いと言われたので、1回出てみた。そうしたら、幹事より幹事ではない人の方が多かった。この幹事会とは何なんだろう、と疑問があった。結局、どういう形で幹事になられたのかわからない状態で進んでいて、こちらも忙しい時もあったので、幹事ではないから資料も来るし行かなくていいかと。確かに予算の関係もあるだろうが、別に出たから全部予算で対応しろとも言わないので、みんな出た方が良い。脇委員の意見にもあったように、幹事は何の為にあるのかという感じ。そういうのが段々積み重なってきて、焦点がぼけて力が入らなくなってくるというのが実態。こういうのはあまりない。

(会長) 委員によって活動に対する力の入れ方は異なり、全員同じである必要はない。その理由が、会議運営にあり方に問題があるというのであれば、今回残念ながらこれで終わりだが、次回以降の進め方の反省材料にしたいと思う。その部分は、会長である私のマネジメント含めて、お詫びをしないとイケない。井上委員、いかがか。

(井上委員) 右城委員と同じように途中から入ったが、結論から言うところまで来たのはすごいというのが私の気持ち。幹事ではないので、幹事会に出たことはないが、その中でここまでまとめ上げたのはすごいと思う。特に住民投票条例は、おそらくあれがあれば絶対的なものだと思っていた。それも今は非常に論点があり、こんなに複雑なものかと初めて知った程度。審議委員をやってもその程度なので、住民はおそらくみなさんそういう認識ではないかと思うので、それも含めて今回色々勉強させて頂いた。まとめについては、素晴らしいものが出来たと思う。これで任期が終わるので正直ほっとしているが。

(会長) 委員としての任期は終わるが、町民としての活動はこれから。他にいかがか。

(小笠原委員) 右城委員と森井委員のように、推薦母体の役員改選により、後を継いでこの会議に参加されたということだが、右城委員が言ったように、途中から入るとなかなか分かりにくいということで、選出母体の方でまちづくり推進会議のその期が終わるまでは、続けるというこ

とになっていけば、途中から入ってきて今までどのようなことになってかわからないということはなくなるし、弊害はないと思う。

(会長) 理想論で言えばそのとおりだが、ただ、それぞれの選出母体の役員の事情もあるので、推進会議として選出母体に強要することは出来ない難しさがある。

(右城委員) 我々は途中から入ったが、途中から入った人は前のものを勉強してみなさんについていく努力をしなかった私が悪い。結果としては、そういうこと。

(小笠原委員) それはどうなのか。森井委員いかがですか。

(森井委員) 組織の問題となると、「そうした方が良いのでは」とは言いかねるが、私は右城委員よりも遅く入って来たので、さらに分からない。脇委員が言ったように、幹事会は最初に断ったと思うが、何でこの案内が来たのかと、疑問に思った。組織自体がよくわからなかった。研究部会に参加して、色々聞いたことは勉強になった。組織の問題となると、民生委員は12月に切り替えになるので、そのまま残るといことがなかなか難しいという問題が出てくるのかと思う。

(会長) それぞれの選出母体から参加頂いているのは、それぞれの選出母体でそれぞれの分野で寒川町のエキスパート、そういった方の私見だとか、そういった方の情報は極めて重要。進め方自体は最初に決めたので途中で入ってくると、決めた時の経緯がわからない。今後も選出母体の事情で途中で入れ替わるということがあると思うので、そういった方へのケアは我々、そして事務局に対応して頂くということで次回以降の反省とする。

(井上委員) 先程、結論として素晴らしいと言ったが、以前はおそらく今回幹事会をやることについても、色々やってみて、幹事・事務局のみなさんからもっとやった方が良いという案が出たのかと思う。色々変化しながらここまで来た。それは決して悪いことではないと思う。色々不満はあるとしても、今後の大きな課題ということで、今後どうして活かしていくか。今回結論が出たというのは、素晴らしいこと。

(右城委員) 幹事というのは、どのように決まったのか。

(会長) これは事務局の方に。

(事務局) 今回の幹事については、今期第1回目のまちづくり推進会議で決めている。まちづくり推進会議の内規において委員の選出区分を2つに分けた中から、3名ずつとしている。

(右城委員) なぜその質問をしたかというのと、僕等が担当している「熟年パワー社会還元研究部会」の中に幹事はいない。なぜ、それぞれのテ

テーマを持った研究部会から幹事が出ているのかという質問をしたことがあるが、どういう経緯で幹事が決まったか分からないので、それ以上は聞かなかったが。結局、そういうやり方をすると、幹事会を開いても、幹事ではないからということで出ない。何か違うような気がする。

(井上委員) 今期の推進会議の中での幹事。確か、部会ではなかった。

(右城委員) そうだが、それぞれの部会でテーマを持って結論付けていくわけだから、そのリーダーになる人が幹事になってなかったら進められない。そういう、ちぐはぐなことがあるから、やっても力が入らない。

(会長) 部会制は、平成25年度から始まった。

(木立委員) 初めの時に、入っているようにすれば良かった。

(会長) たまたま熟年パワー社会還元研究部会は幹事が入らなかったが、幹事が居なかったからといって、まとめて支障があったというわけではない。

(山口委員) 私は、去年の3月からだが、第1回目の時に話を聞いて、私の場合は工業協会の代表という形で出ているが、寒川住民でもあるので、どちらの立場で意見を言ったら良いのかと質問したところ、両方の立場でということだった。非常に難しいと思う。私の前任者は、弊社の事業所長だったので、そういうレベルの方が出るので、一兵卒が、いきなり寒川住民だから出てくれと。前任者の理由が、寒川のまちづくりというものに対して、一番町民が関わる内容を他の都市に住んでいる人が言ってもはつきり言って、わからないので、役柄的には重いかもしれないが、行ってこいということで、急遽参加させて頂いた中で、右城委員が言ったように、わからない所があった。僕の場合は代表という立場からどういう事をやっているか知らなければいけないということで、幹事会に出来るだけ出てみようかと出てみた。まちづくり、自治基本条例が今後進んでいく中で町民と町が連携していく中で、このメンバーははつきり言っていい年の人の意見が入っていく、本来もっと若い人達が意見言えるような場を今後設定していただく中でやっていった方が、若者の本音というか、そういうものを聞けるようなまちづくりをしていけると良いのではないかと思う。

(会長) 山口委員の冒頭で、町民としても事業所としても、ご質問頂いたことを覚えているが、自治基本条例における「町民」の定義というのは、住民に限らず事業所含めた定義なので、どちらの立場でおっしゃっても町民なんですという話はした。

(山口委員) 企業の代表といった場合に、決まった内容を工業協会にフ

ードバックして、また工業協会の意見として持ってくるのが代表だと思う。でも、実際のシステムとして全くなっていない。そういう所で、代表で出ているのは難しいという感じはする。

(小笠原委員) 関連して、女性の活躍の場研究部会でも、審議委員を実際にされている6つの審議会、13名の委員に聞いたが、推薦母体から上がってきている方は、山口委員と同じような意見があった。

(山口委員) 工業協会の中で、このまちづくり推進会議というものにどこまで関われば良いのか、重要度をファクターとして持っているかという、僕もスタート時点から入っているわけではないのでわからないが、当初会議は年3回位しかないと言われて来たが、実際に今期は、こういう研究部会で7、8回、幹事会に出ても良いということでそこにも参加すると、会議の3回以外に10何回かで、当初言われたのと全然違う。工業協会では、年3回という認識しかないと思う。

(会長) 職責として参加する年3回というところは、引き継ぎとして受けたと思うが、今回これだけの添付資料を付けたのは、年3回だけでなく色々やったことの成果として形にするため。山口委員のように途中から入られてくると、まちづくり推進会議の当初、活動の形態を決めたが、そこに参加していなかったということで、理解が十分でないところがあったと思う。申し訳ない。

(山口委員) ただ、実際参加してみて、やはりうわべだけの付き合いをしていると大変失礼かなと思ひ。自分の中では出来るだけ参加しようと思った。

(藤岡委員) 幹事会というのは、最初からあったのか。それとも平成24年度からあったのか。第1回目からあったのか。

(会長) 第1回の会議で幹事を決めた。

(木立委員) 1期から幹事会はあったがやり方が違って、会議の前に幹事の方が1時間なり早めに集まってやるような形で、開催日は変わらない。ただ、なかなかこれだけのボリュームとしては、突き詰めていくと足りないということで、増えた。

(藤岡委員) これだけの量をこなすには幹事会は必要だと思う。

(木立委員) 1期目の最初から決まった開催日数では無理だということで、最初から幹事を作りやっ払いこう、私も1期目の途中からだが、そういう流れでやってるという形できている。

(会長) ぼやきみたいになりつつあるが、私自身も実はそうで、片道1時間以上かけて年3回と聞いていたが、おかげさまで寒川町のことがだいぶわかるようになった。話を戻して、先程山口委員が若い方のご意見

を取り入れるという意見があったが、参加された中で感想はあるか。
(齊藤(正)委員) 議題4をやっているのか、確認したい。2番の報告書全般についてご意見ありませんかということだったが、話を聞いていると、何番をやっているのか。

(会長) 失礼しました。

(齊藤正委員) 整理をお願いします。

(会長) ご指摘のとおり。流れで4番に移ってしまった。(2)の報告書全般について、特段異議がなければ資料1-1で進め、4番に移りたいと思う。

<修正案の意見等>

(齊藤雅委員)

【修正①】資料7の右側、「第31期寒川町まちづくり推進会議報告書(いろいろな団体がネットワークを深めて活動していける仕組みについて)」の、この()ごと取る。

【修正②】平成26年度の6月の「第1回 推進会議」を「第4回 推進会議」へ。

【修正③】真ん中の黒い矢印の太さを、アンケートの所の矢印と同じ太さへ。

【修正④】8月に自治基本条例の広報をしたので、下線でも良いので、町が実施したことという意味で記載する。職員研修も実施したので、それも入れる。太線から風船を出すような形で。

アンケートの結果送付についてだが、送付の案文がついていないが、どこで確定したのか。

(会長) 幹事会です。

(齊藤雅委員) わかりました。幹事会で確定したということだが、私としては形式的にここへ出すのかと思っていた。

(会長) 資料7の修正については、事務局に検討していただくということで、他に意見が特段なければ資料1-1については確定させて頂く。

進め方含めてよろしければ、磯川委員から任期を終えるにあたって一言をお願いします。

(磯川委員) 色んな団体をやっていて、役が被っていて出れなくて申し訳ないというのが感想。自治基本条例や町民協働は、私より上の年代だけでやるものではないと思うし、未成年はどうかというところがあると思うが、未成年には保護者が居るし、成人した方であれば独身・既婚に関わらず対象になるかと思う。そういった方々にここへ来てもらうには

、普通に広報等で募集かけても来ない。開催時間も平日の午前中と言われてしまうと、私は自営なので仕事が大変ではない時は調整つくが、普通の方は無理だと思う。有休を取って来るといって程の人だったら、議員になっていると思う。非常に難しいと思うが、ここに来られている方で団体などから推薦や出向で来られている方は、まちづくりや協働に敏感だったり勉強されていたりする方で居て、やられてない方の意識をどう向けてもらうかが、ポイントなのではと思う。私は青年会議所に入っているので少しは知っているが、パブリックコメントとかは同級生は全然知らないし、自治基本条例も何のことという感じだと思うので、形から入るよりも普段の生活から。私とかが周りの人に言えば良いのだが。ゴミがどうか子育て支援の額がどうか、それは決まっているものなので仕方がないが、よくみんな文句を言うと思う。行政サービスに文句言ったりするが、ではその人達は投票に行ってるのかというところに行っていない。ベースを少しずつ上げていけるような、そういうのがあれば良い。

（会長）貴重な意見だと思う。今の意見をどう活かしていくかは、次の会議の課題。次に、平本委員。

（平本委員）私は婦人会から出ていて、去年の第3期からやっているが、最初は本当にわからなかった。ただ、まちづくりというのは、住みよいまちをつくるための会議かと思ったが、行ってみると自治基本条例とか条例が多々あることも知った。私は幹事ではなかったが、他の委員会にはない幹事会もあったので、流れを知りたいと思い、出来るだけ予定がつく時には幹事会に出席し、やっと昨年あたりから大体内容が少しずつわかってきた。研究部会も初めてだったが、熟年パワー社会還元研究部会は、リーダーが幹事ではなかったもので、会議に出られないということは残念に思いました。

（谷村委員）元々は年3回という推進会議の中で、幹事会を本当に数多く開催してきた故に、今回結論とは言わないが、一つきちんとかういうことをして欲しい、こういうことを期待するというのが出来たというのは成果だと思う。運営等々、前段の中で意見が出ていたが、意見が出た話は来期以降に、運営、進め方含めて相当課題があると思うので、きちんと整理をしていかないといけないと思う。いずれにしても、前回は確かアンケートも作るまでも至らなかったところから、アンケートを出し、結果をまとめ、かつ部会ということでそれぞれ提言しているというのはすごい進み具合だと思うし、そこには大変なご苦労があったと思う。今後、出して終わりではなく、具体的に協働のまちづくりを進めるため

に、町としてどういう受け止めをして頂いて、どう分担して双方が何をすべきか具体化していかなければ、せっかく出したのを終わりにしてはいけないと思うので、そういったところ含めて次回に繋がるようにしていかなければいけないと思う。

(会長) 指摘はごもっともだと思う。

(山口委員) 特に結果としては、研究部会を含めて形になったのは、前期のアンケートをまとめて、各団体の意思がそういうものなのか見えて一つの成果だと思う。庁内のアンケートによって、初めて役場の仕事が見えてきたのと、これが庁内の横の繋がりを今後発展して頂ければ良いかなというところでは、外と中の仕事の内容の明確化ができたことも成果だったと思う。そういう点では勉強させて頂いた。

(齊藤(正)委員) 私は割と初めの方から参加させて頂いて、先程も意見が出ていたが、今までの課題・懸案が大きく進んだ。前期はどちらかと言うと、課題だけ残して先送りという感じで、その結果今年度はみなさんのパワーに支えられて、これだけの結果を出してきた。そういった意味では素晴らしかった。ただ、私の場合仕事をしているので、午前中会議は出れないと言っても、会議は午前中になってしまう。そうすると、はっきり言って、全部欠席になってしまう。その辺が一つ残念だった。ただ問題は、これから一つの方向性や課題を出した時に、来年度以降、この会議の結論とは言わないが、これを見て町が、来年からの推進会議は町としてどうしていきたいのかそこをきちんと打ち出して欲しい。また来年のスタートになって、こういう風な課題を整理して出して、またそれはそれとして、どういう風にしていこうかというような対応の仕方をされた場合には結果的に何の為だったのかという風になってしまうので、この課題を整理したものとして町としてしっかり受け止めて頂きながら、来年度については、どういう風に町はこれを受け止めて会議をどうしていくのか、そういう所をやって頂ければいい。

(右城委員) 山口委員からも意見があったように、若い方の参加、例えば、若くて勤めている人に午後から休んで来てもらうことは出来ない。そこで、例えば大学行っている人とか、成人式の進行役を務めている女性だとかかなりそういう事に関心持っている方が居ると思う。私はついこの間まで、明るい選挙推進協議会の活動をしていたが、20代30代の投票率がとても低い。それも含めて、寒川町全体の投票率がとても低い。つまり、寒川町という町全体の土壌は、どちらかと言うとこういうことに関心の無い土壌。小笠原委員が言ったように、女性の参画と言っても、女性議員が2人しか居ないから何とかならないかと言っても、まず

は小笠原委員が議員に立候補する、そういうことでないと進まない。そういうものを含め、具体的に何をやるのかということ。例えば、学童保育の問題でも、大変ご苦勞をかけている親御さんが居る。その学童保育の中からこの委員に選出してもらって、まちづくりどうするんだとか、そういう若い方をピックアップするような方法を町全体が考えていかないと、若い人に参画してもらってまちづくりをしないと、我々の年代が色々言ってもあまり意味が無い気がする。熟年パワー社会還元研究部会という私達が担当した部会があるが、言ってみれば団塊の世代を対象としてどうしようと考えて、その人達が本当にパワーを発揮するのに、色々システムチックに動き始めるのに、何年かかって、次から次へ出てくるその人達、65歳ぐらいの人達、動ける人はどの位居るのか。今私はここで77歳になるが、同じ年でもあまり動けない人も居る。そういうことを考えると、その人達の生きがいか働きとかは大事なんだろうけど、もっと若い人達のこういう町になって欲しいという意見を積極的に取り入れ、町が考えていく方法で。せっかくまちづくり推進会議もあるのだから、そちらの方がより建設的なのでは。若い人に意見を言ってもらえるような場がない。それを立ち上げていかないと、寒川町は良くなれないのではというのが実感。

(会長) 次の期で検討する材料なのかもしれない。会議の時間については相当苦慮した。お子さんが居るような女性の参加を考えると、午後の方が良い、お勤めの方だと夕方の方が良い、それぞれにとってご都合の良い時間というのは必ずしも一致しない中で、一番集まる時間で設定せざるを得なかった。それは会議の難しさでもあるし、若い人が集まる時間というのは、次の期以降の検討材料になるのかもしれない。

(森井委員) せっかく研究部会があるから、そこを中心とした推進会議はこのメンバーであっても、さらに小さなメンバーで、住民投票条例は本当に色んな年代の意見を聞かないといけないと思うので、そういう部会でもって、そういう年代を集めてというやり方もあるのかと思う。せっかくみなさん良いものを作っていて、何回も声が出ているように、このままにしてはいけない。前へ、一歩でも半歩でも進めて頂けると有り難い。

(脇委員) あてがってもらって動き出すというのが、どうも日本人が持っている最大の特徴だと思う。町のことを自分たちが率先してやるのではなく、上なり横なり斜めなり、どこかからあてがってもらって、それで自分の判断で動き出すというのが日本の国民みたいなもの。それは何かというと、個人個人の目的意識が弱いからそうなんだろう。子どもが

学校へ上がると、PTAに参加してくるが、終わってしまうとばたっと終わってしまう。夢中になるのは子どもが学校に行っている間だけ。PTAを終わらせたら、それを女性の参加の話ではないが、そういうのを吸い上げてくれるようなものが良いんだろうけどその場で終わってしまう。これがどうも日本の民族の特徴ではないかと思う。何の不服も持っていないものばかり。誰が不服持っているかわからない。かえって、我々がこういう機会があるなら、事務局が長年抱えている問題を諮問機関のようにここへ答申してもらい、やっていくとか。我々が困っている人をどうやって探るのか、探りようがない。まちづくりをこんな風にしてくれという人は一人も居ない。それでまちづくりをしようと言うのだから、おかしい。だから何をやって良いかわからない。

(会長) まちづくりなり、外からあてがわれた課題があれば、それをきっかけとして、議論しやすく出来るのかもしれない。ご指摘のとおり。

(木立委員) 過去の良い教訓は活かさないといけない。そうしないと、何回も同じことを繰り返して発展性がない。3期は全て関わらせて頂いた中で、やはり期ごとにカラーややり方が違う。それはそれで、その期にあったやり方だったと思うが、1期目は、限られた開催数がある中で、会議開催の前に幹事会をやりそこで詰めて、もとの開催数で何とかやっっていこうという考え。それで、余分な話をせず、パブリックコメントや会議の公開など、集中して焦点を当てて議論をするということだった。それはそれで一定の成果もあり、結果も出し、動き出すことになり良いのだが、2期目は意見を出し過ぎてしまい、まとまりがつかなくなった。焦点が合わない。住民投票条例についてやるか、時間が無いからやらないか、そんな事をやっているうちに何も決まらずにずるずるいってしまい、時間がもったいなくなってしまうというのがあるので、その辺が難しい部分でもある。まちづくりは幅が広いので、1回目位である程度絞っていかないと、ずるずるいってしまう危険性がある。そういった面で3期目に入り、菊地会長が上手いバランスで仕切って頂いて、ここまで出来るというのはすごい事だと思う。私は、途中でこれは出来ないなと思ったりもした。どうしても決まった開催以外でみなさんが動いてくれたというのがこれだけになっている。そうしないといかない。でも、果たしてそのやり方で良いのかというのも、意見が分かれると思う。確かに結果的には形にすることが出来て、色んな視点で話し合った部分を形として出すことが出来たのは成功だが、これが例えば4期目のやり方として部会とかも作って同じように活動していくのかということ、あと焦点を絞ってピンポイントでその期ごとに何が大事なのかという

部分で特化して進めていくというやり方もあるかもしれない。それは、わからないので何とも言えないが。そろそろその辺をはっきりさせていかなければ、その期毎に全くやり方が違うというようになると、若い人が入ってくるという風に進めようとしたときに、こういうのをやっているからやろうよと言えなくなる。そういった面で、発展性を考えると、的を絞ってこういう風にやっていくんだというものをスタート前に決めていかないと、最後に次回はこういう風にと、スタイルとしては確定していくような段階にあるのかなと思う。そういった部分では今期は成功だが、4期目は何を活かすべきなのかを、しっかりと決めていければ良いのかなと。また、途中から入った部分でまた難しいのは、私は1期目の途中で入った時は、たまたま会長やっていた人が普段も会っていた人なので、事前にその人と何をやっているのか話せたので比較的入りやすかったが、それがなかなか難しいので、例えば途中から入る人が居たら、30分位早く来てもらい、今までこういう風にやってきたという話をした上で入ってもらう方が良いのかと思う。それは、次回以降はそうすべきことかと思う。

(会長) 重要な指摘。

(井上委員) 私としては、成果が出たことに満足している。ただ、これを今後町として、第四期としてどれだけフォローしてくれるか、それを見ていきたい。今回若い人の話も出ているが、私達は女性の活躍の場研究部会を、小笠原委員中心にやったが、やはりまだまだ女性のパワーで時間がある方はたくさん居ると思う。そこをどう吸い上げるか。若い人がなかなか難しい中で、女性であれば出来ることはたくさんあると思う。そのこの所を活用出来る提案をしていけたらと思う。小笠原委員、みなさんをまとめ引っ張っていくのは大変だったと思う。お疲れ様でした。

(藤岡委員) 自治会長を10年やっていて、その時は女性は4人居て、どんどん増やして活動していこうと動いていたが、今は女性が2~3人しか居ない。増えるどころか減っていて、残念だなと思う。議員も自治会長も少ないので、どんどん若い人に参加してもらいたい。

(新保委員) まちづくり推進会議のイメージが最初から違っていた。これは大変ということで、会議はもちろん幹事会、部会と我ながら良く頑張ったなと思う。カレンダーを見ると、今までまちづくりの字が必ずあったが、来月からなくなるのは少し寂しい気もしているし、ほっとした部分もかなりある。協働文化推進課とは、まだ文化面で関わっていくので、そこで今まで培ってきた知識等を使っていければ良いなと思う。

(斉藤(雅)委員) 任期中間の平成25年の4月に人事異動があった。任

期後半の、事務局の考え方、失礼ながら姿勢に問題があり、協働のプラスαが生じなかったと思う。その結果、平成24年度までの事務局であればアンケートの目的であった仕組みや手引き書の原案程度が出来るのではないかと考えていたが、そこまで到達出来ず、残念な気持ち。今の事務局は、推進会議を協働のパートナーと考えていないよう。協働のまちづくりに繋がる協働文化推進課の仕事も全て事後報告で、ほぼ毎月開いていた幹事会にも事前の情報提供や相談もなかった。一つの例が、自治基本条例の広報。協働について、「協働とは一緒に働くことです」と広報して、町民から字のままと笑われてしまい、この辺りもプラスαがあれば、防げたと思う。また、町民の税金を使う職員は、物事の筋も大切だと思う。第二期推進会議は、町長にアンケートの実施を提言し、町長もそれを了承したのだから、推進会議と協働関係でなければ役場がアンケートを実施することになる。それを推進会議は、主体的にアンケートを作成したのだから、それまでの経緯を顧みることなく文書通告があり、推進会議が単独でアンケートを実施することになった。協働は、補完し合い、双方が主体的に活動するものだと思うが、今の事務局にはそのような考えも諮問答申型の審議会と異なるという考えも無いため、これまで積み上げられた考えややり方を相談も無く、これがルールだとばかりに一方的になっている。委員も二期やれるようになったが、こんな状況では手を挙げる人が居ないのも無理からぬこと。平成24年度の事務局長は理屈がわかっている、幹事会にも毎回出席があり、このようなことはなかった。だから、協働のプラスαが活きた。今の事務局長から、協働を町はなぜ必要とするのか、役場や町民はどのようなメリットがあるのかを熱く語って頂ければ違った転換があったかもしれない。これらの点は次回に委ねたいと思う。最後に、仕組みの検討を行う町内プロジェクトについてだが、事務局だけで仕組みの構築と庁内を円滑に動かす力があるのであれば、組織しなくてもよいのではないかと。要は早く良い仕組みが動き出せば良い。

(小笠原委員) みなさん女性の活躍をとということで大変広く寄与した。自治基本条例の中に町政の参画の中で審議会等の委員の公募について、若い世代の方達に入って頂く、男女比・年齢構成等に配慮するという風に謳っているので、事務局の方もその辺のことを十分配慮して、規則・内規等の見直し等を考えていただければと思う。

(会長) みなさんそれぞれのご意見、ご感想あったかと思う

	<p>。これをどう論議して活かすのか、事務局に対して意見等あったがそれを含めて第四期以降に引き継ぐものと引き継がないものをご検討頂ければと思う。これだけの活動量を支えて頂いたので、私としては事務局に感謝したい。</p> <p>～午後 4 時 1 0 分閉会～</p> <p>〈議事録承認委員の指名〉 谷村委員と平本委員を指名</p>
<p>配付資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○次第 平成 2 6 年度第 1 回寒川町まちづくり推進会議次第 ○資料 1 - 1 寒川町まちづくり推進会議報告書 (1) ○資料 2 - 2 寒川町まちづくり推進会議報告書 (2) ○資料 2 熟年パワー社会還元 (近未来の新文化) 研究部会報告書 ○資料 3 「女性の活躍の場研究部会」報告書 ○資料 4 - 1 町民参加研究部会報告書及び自治基本条例を推進するための庁内アンケート結果 ○資料 4 - 2 自治基本条例を推進するための庁内アンケート結果集計 ○資料 5 第 3 期寒川町まちづくり推進会議 住民投票条例勉強会 報告書 ○資料 6 寒川のまちづくりに向けたアンケート 集計表 ○資料 7 第 3 期 まちづくり推進会議の平成 2 5 ～ 2 6 年度 調査・協議事項
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>谷村委員、平本委員 (平成 2 6 年 8 月 8 日確定)</p>